

インターバンクの声（2015年8月17日）

8月ではロンドン、ニューヨーク市場まで追いかける日本勢が最も少なくなると思われる先週末だったが、米生産者物価指数、鉱工業生産、ミシガン大学消費者信頼感指数の結果に素直に反応して週の取引を終えている。週を通して振り返ると、ドル円や豪ドルは週初に比べて大きな変化はないが、ユーロが200ポイントほどの上昇を見せた。欧州圏では特別材料が見当たらない中で、ギリシャ議会が欧州連合（EU）から新たな金融支援を受けるための財政改革法案が可決されたことなどが下支えになったのかも知れない。それにしても、週初には動意薄の一週間になるとの予想だったが、唐突な中国の人民元切り下げには各国の金融市場が大きな影響を受けた。特にドルは週間ベースでは、2ヵ月ぶりの大幅安となった。中国人民銀行が過度の変動を防ぐために介入をする意向を示したことで、今のところ米金融制度理事会（FRB）の9月利上げ見通しが著しく後退するには至っていないが、今週の人民元相場や各国の株価、債券の値動きには引き続き注意が必要だろう。週末の米経済指標が概ね好調だったことで止まってはいるが、ややドルに売りバイアスが掛っているのも気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。